

～女のコの肌の匂いを嗅ぎたい～

宮内美桜：

「君は、女のコに何をしたいの？」

「恥ずかしがらないで言ってごらん」

男子生徒：

「ボク、前々から女のコの肌の匂いを嗅いでみたいと思っていたんです」

「やっぱり、ちょっと普通じゃないですよね」

美桜：

「いいのよ、全然おかしくないわよ」

「女のコのカラダって神秘的で、男のコがそう言う気持ちになるの、先生は判るよ」

「女のコの側に寄ると、いい匂いがするわよね」

「女のコの肌の匂いどうなってるか気になるの判るわよ」

「それじゃあ、私の服を脱がせて？」

「ほら、手はここ」

「ブラウスの上のボタンから、外して？」

「緊張してるのね」

「手が震えちゃってるよ」

「慌てないでゆっくりでいいからね」

「そうよ、慌てないで、丁寧だね」

「ボタン外ずれたわね」

「じゃあ、脱がせて」

「そうね、上手ね」

「じゃあ、万歳するからこれも脱がせて」

「そうよ、優しくね」

「はい、次はブラよ」

「後ろのホックを外して？」

「そう慌てなくていいからね」

「外したら、前に来て」

「優しく、ブラをとって？」

「腕から、紐を外して？」

「そう、そうよ」

「ブラ、こっちに渡して」

「私のおっぱい、どう？」

「君は、女のコのおっぱい見るの初めて？」

男子生徒：

「いえ、付き合ってるコのおっぱい、見えます」

美桜：

「じゃあ、大丈夫ね」

「君も、おっぱい好き？」

男子生徒：

「好きです」

美桜：

「男のコって皆好きよね」

「もっと近寄って」

「じゃあ、首から匂いを嗅いでいって」